

農業に魅せられて



柴田町の「農事組合法人葉坂希望の郷」代表の平間盛秋さん（66）は魅力的な生き方と農業を実践している。

平間さんは6年前にサラリーマンを退職、農業に専念したが、昔、地元の先輩から言われた「農家は災害が起きないと儲からない」という一言が忘れられないと

いう。令和元年度は、大きな自然災害により甚大な被害を受けた。しかし、「豊作貧乏・骨折り損のくたびれもうけ」ではないかと語る。

平間さんの趣味は「そば打ち」で40年以上続けている。仕事で長野県に行った際にそば打ちと出会ったのがきっかけで、県外の有名そば屋を食べ歩き、国産そば粉が少ないことを知り、今ではそば栽培も行っている。また、自宅近くに会員制のそば屋を開店、野菜ソムリエなどの資格も取得した。学校給食向けのダイコンなど野菜栽培も手掛けており、地域とのつながりを大切にしている。

昨年度圃場整備が着工したが、一部圃場が作付け可能になると、平間さんは50年前の高校時代の参考書を大事に保管しており、学生時代に習った「稲の事は稲に聞け」を座右の銘として作物の顔色をみて回る毎日を過ごしている。